

## 10.ヨッピーの改善策

### 10-1.ヨッピーの導入経緯とヨッピー運行開始後の市内バス交通の変遷

#### (1) ヨッピーの導入経緯

【導入目的】	
循環バスによって、市役所、四街道駅、商業施設等の公共公益施設を結び、交通利便性の向上を図るとともに、バス交通不便地域の改善を図り、もって、市民の福祉の向上に資する。	
【導入までの経緯】	
平成 11 年 2 月	交通問題連絡協議会にて検討 ・ 導入検討委員会や庁内ワーキンググループで検討 ・ 市民 3,000 人アンケートの実施
平成 12 年 3 月	四街道駅～山王病院間のバス路線廃止
平成 13 年 3 月	ヨッピーの運行開始

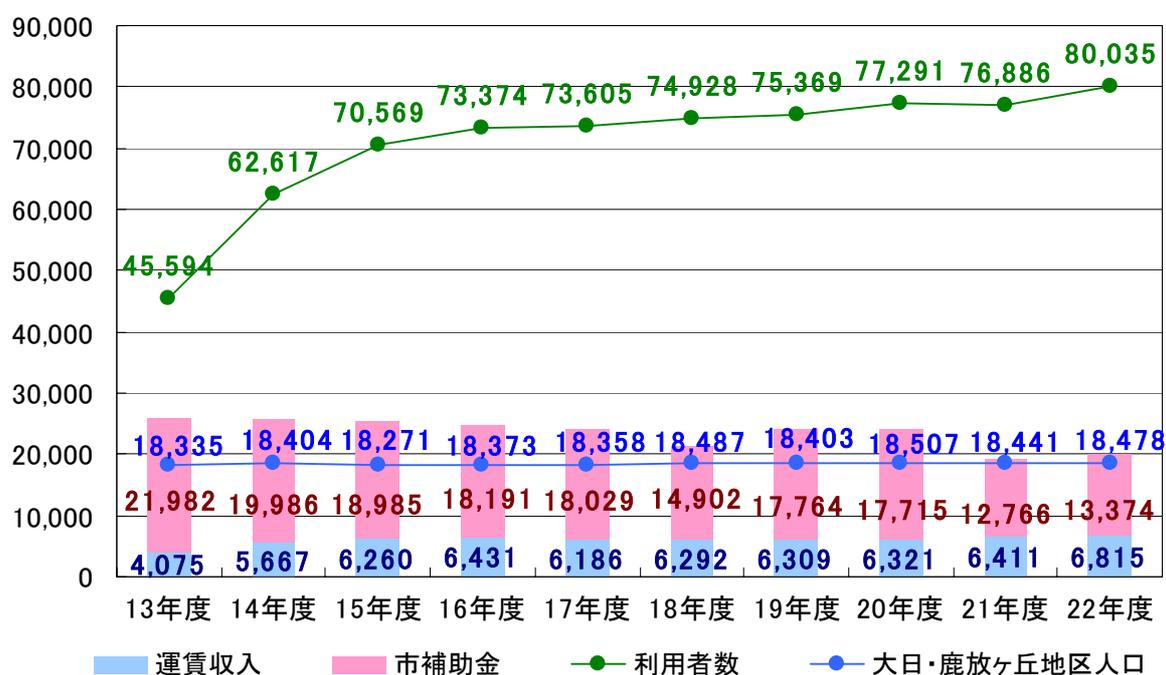
#### (2) ヨッピー運行開始後の市内バス交通の変遷

【市内における民間バス路線ネットワークの拡充】	
当初は“市民が平等感のもてるルートとすべき”といった考え方から、市内を4ブロックに分け、それぞれの地区にヨッピーを運行させる予定であったが、民間路線バス路線との競合の問題等もあり、実現はされず、市としては回転広場の整備をおこなったり、補助金を交付することにより、民間路線バスを拡充する方法で市内のバス交通ネットワークの拡充を行ってきた。	
【ヨッピー運行開始後の市内バス交通の状況】	
平成 15 年 12 月	亀崎線運行開始 つくし座線運行開始
平成 17 年 10 月	物井・池花線運行開始
平成 18 年 8 月 9 月	吉岡線補助開始 中台線運行開始
平成 22 年 10 月	四街道駅南口ロータリー運用開始
平成 23 年 5 月	若松四街道線運行開始

### (3) ヨッピーの利用状況と市補助金の推移

- ・平成13年の運行開始以後利用者は増加傾向にあり、平成13年度では45,594人/年であったものが、平成22年度では80,035人/年と約1.8倍となっている。なお、増加要因としては、当初の2～3年については、ヨッピーの認知度が上がったことにより、大幅に増加しているものと考えられ、それ以降についても運行地区の人口微増や高齢化などの要因により緩やかではあるが、増加傾向が続いているものと考えられる。
- ・ヨッピーの利用者は増加傾向にあるものの、運賃が100円ということもあり、運行経費を全ては賄いきれないため、運行を維持していくために市が補助を行っており、その金額は、平成13年度～平成17年度までは車両の減価償却もあったこともあり、約1,800万円～約2,000万円を補助していたが、それ以後は、約1,300万円～1,700万円と少しずつ運行補助が減少している傾向にある。

(千円、人/年)



年 度	運行経費 (千円)	運賃収入 (千円)	市補助金 (千円)	利用者数 (人/年)	大日・鹿放ヶ丘地区人口 (人)	高齢化率 (%)
13年度	26,057	4,075	21,982	45,594	18,335	
14年度	25,653	5,667	19,986	62,617	18,404	
15年度	25,246	6,260	18,985	70,569	18,271	
16年度	24,622	6,431	18,191	73,374	18,373	
17年度	24,216	6,186	18,029	73,605	18,358	17.5%
18年度	21,194	6,292	14,902	74,928	18,487	
19年度	24,074	6,309	17,764	75,369	18,403	
20年度	24,036	6,321	17,715	77,291	18,507	
21年度	19,177	6,411	12,766	76,886	18,441	
22年度	20,189	6,815	13,374	80,035	18,478	23.2%

※運行経費には、平成13～17年度は車両購入費(19,600,000円)の減価償却費、平成19年度は塗装等のリニューアル費用2,093,760円、平成20年度は車両をIC対応にするための費用2,818,000円を含む。

#### (4) ヨッピーの導入効果

##### ①自動車からの転換による環境改善効果

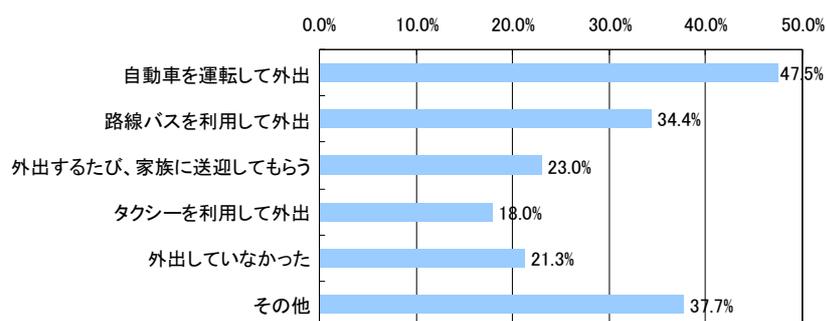
ヨッピーが導入されていなかった場合には、自動車で外出していたという人が多いこと、また、マイカーを控えて環境に配慮できるようになったと考えている人が多いことから、ヨッピーの導入が地球環境への負荷軽減に対しても寄与していることが伺える。

##### ②中心市街地の活性化

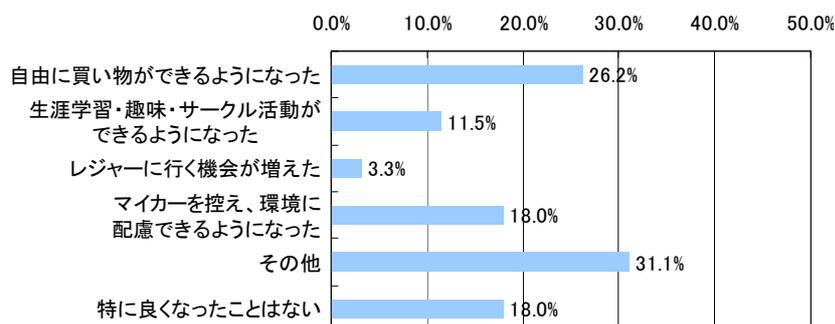
ヨッピーが導入されたことによって、自由に買い物ができるようになったという人が多く、このことによって、中心市街地で買い物する人が増え、中心市街地の活性化にも寄与していることが考えられる。

##### ③高齢者の外出機会の促進効果

ヨッピーがなければ外出していなかった、自由に外出できるようになったという回答が多いことから、移動手段がなく、外出していなかったあるいはできなかった高齢者などの外出機会が拡大されていることが考えられる。



その他の主要な意見	サンプル数
徒歩	9
自転車	9



その他の主要な意見	サンプル数
通勤に便利	5
安くて便利	4
通学に便利	3
通院に便利	2
駅までいくのに便利	1

#### (5) 課題の整理

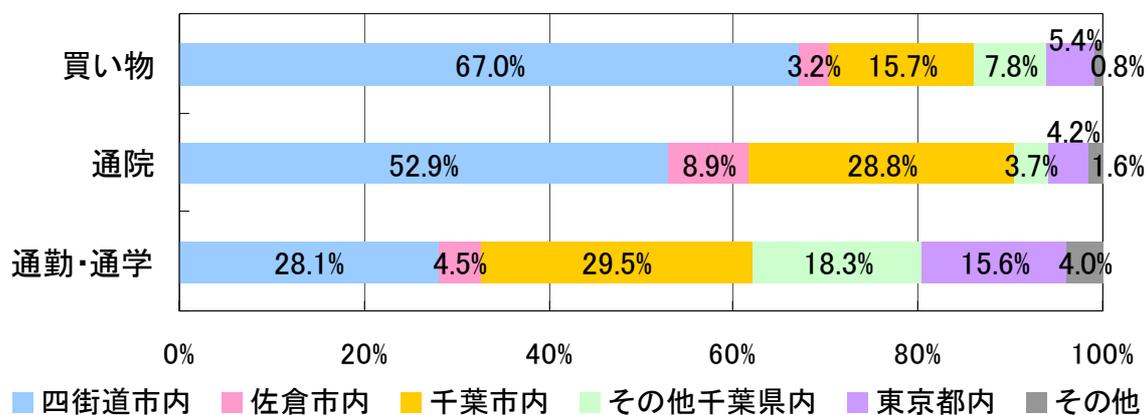
- ・年間 1,300 万円～2,000 万円程度の運行補助を行っており、導入による社会的効果はあるものの、運行を継続していくためにも、効率的な運行により収支を改善させる必要がある。
- ・ヨッピーは一部の地域にしか運行されておらず、民間路線バス利用者（初乗り 160 円）との間に不公平が生じているため、現行運賃 100 円については見直しを図る必要がある。

## 10-2.ヨッピーの運行改善策の検討

### (1) 運行エリアの地域住民の移動実態・ニーズ把握

#### 1) 生活行動実態

- ・通勤・通学の行き先は、四街道市内、千葉市内が約 30%で最も高い割合を占めており、次いでその他千葉県内が続いている。
- ・買い物、通院においては四街道市内が約 50%～70%で多くの割合を占めており、通院の主な行き先としては、下志津病院、大日病院、山王病院、かすや内科クリニック、栗山中央病院、木村内科病院、桜ヶ丘クリニックが多く、買い物先としては、イトーヨーカドー、ヤオコー、コープ、メガドンキ、千葉そごうが多くなっている。  
次ページに上記施設の位置図を示す。



#### 具体的な行き先（施設名称（上位 5 番目））

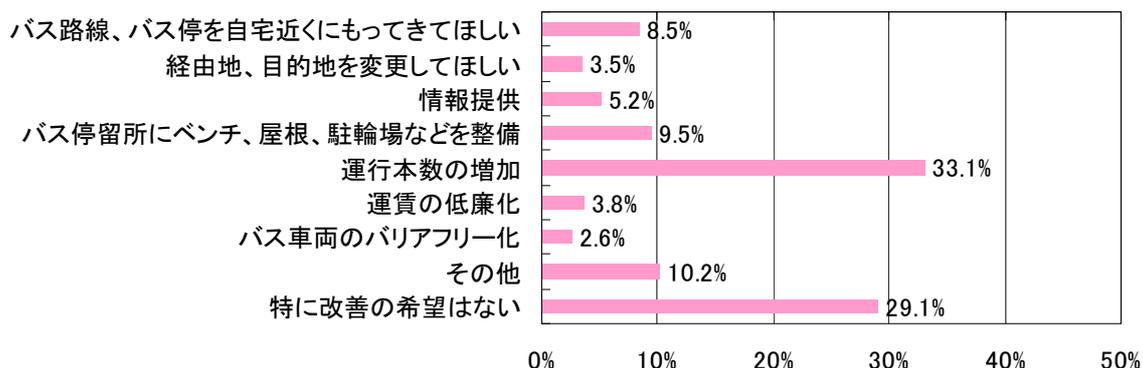
病院名	サンプル数
下志津病院	13
大日病院	9
山王病院	6
かすや内科クリニック	6
栗山中央病院	4
木村内科病院	4
桜ヶ丘クリニック	4

商業施設名	サンプル数
イトーヨーカドー	79
ヤオコー	21
コープ	10
メガドンキホーテ	6
千葉そごう	5



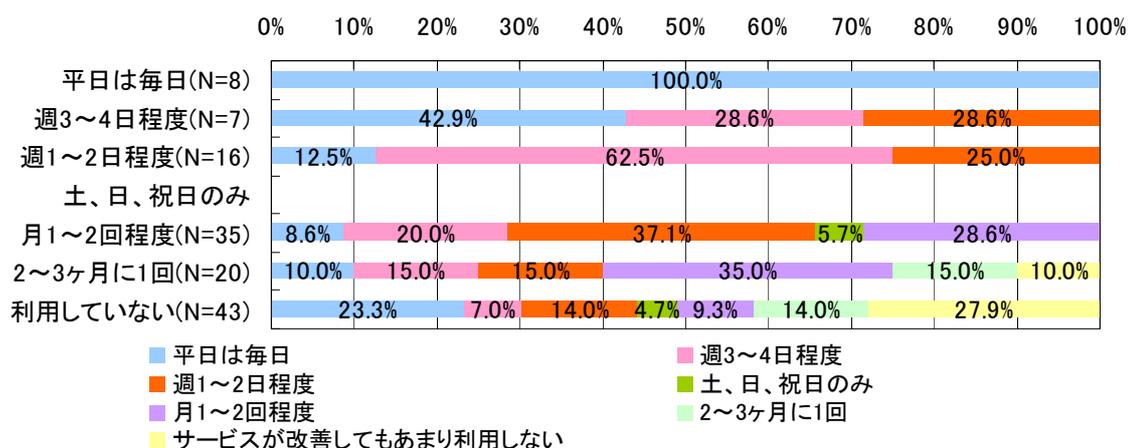
## 2) 公共交通サービスに対するニーズ

公共交通サービスに対する改善要望としては、運行本数の増加、特に改善の希望はないが、約30%で最も高い割合を占めている。



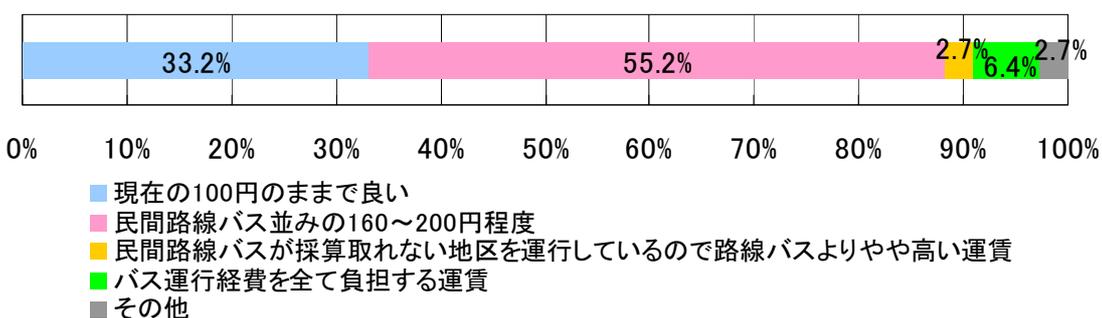
## 3) 公共交通サービス改善による利用日数の変化

- 改善要望として、運行本数の増加が強く望まれており、その人たちの利用日数がどう変化するかについてみると、週3~4日といった定期的利用者のうち、約40%の人が平日は毎日利用すると回答している。
- 週1~2日、月1~2回といった非定期的な利用者において、約50%以上の人が今よりも利用回数が増えると回答している。また、利用していないという人についても、約70%の人が利用するようになると回答している。



## 4) ヨッピーの運賃改定に対する意識

- ヨッピーの適正運賃については、民間路線バス並みの160~200円程度でよいと考えている割合が約55%でもっと高い割合を占め、次いで現在の100円のままでよいと考えている割合が約30%で続いている。
- ヨッピーの運賃に関して、現行の100円より高くした場合においても、現状から変わらずに継続してヨッピーを利用してもらえる傾向にあることが伺える。



## 10-3.ヨッピー改善に向けた考え方

### 1) 運賃の改定

- ・市民アンケートの結果によると、ヨッピーが運行されている地域に居住している住民の運賃に対する意向は、民間路線バスと同程度の160～200円でも良いという割合が高い。
- ・ヨッピー利用者アンケートにおいても、160～200円程度であれば、値上げをしても利用が変わらないという割合が高い。
- ・利用者負担と市補助とのバランスや民間路線バスとの運賃負担の公平性の観点、また、アンケート結果を踏まえ、ヨッピーの運賃を160円～200円間で値上げする。

### 2) 運行ルートの変更

- ・ヨッピーの利用状況を見ると、利用者の多い区間と少ない区間とがある。
- ・経費を圧縮した効率的な運行と新規需要の確保を図る運行ルートへの見直しを行う。
- ・現行ルート周辺に存在する公共交通空白地域の解消について検討を行う。
- ・利用者が少ない区間については、これまでの乗降状況や地域の実情等を踏まえ、便数等を検討する。

### 3) 運行間隔の変更

- ・1日の運行本数については、増便を求める改善要望も多いことから、極力現在の運行経費を増加させない範囲での増便を検討する。
- ・市街化調整区域となっている東関東自動車道以北の地域、第二庁舎前～四街道市役所間については、利用者数も少ないことから、需要に見合った運行間隔に見直す。

### 4) 四街道駅北口ロータリーへの乗り入れ

- ・第二庁舎での乗降客数が最も多く、その多くは四街道駅の利用者であると考えられることから、四街道駅北口ロータリーへの乗り入れを検討する。

## 10-4.ヨッピーの見直し運行の方針

### 【 平 日 】

ねらい	<p>現行の運行ルートカバーしながら、周辺の空白地域に対応する。また、通勤・通学の利用ニーズに応えるため、運行時間を拡大する。</p>
運行方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市街化区域を中心とした高需要地域は運行距離の短縮化により効率的な運行を行いながら、運行本数の維持または増便を図る。また、朝夕の運行時間拡大を行う。</li> <li>●市街化調整区域を運行するルートは、可能な範囲で交通空白地域に対応する。</li> <li>●わかりやすい時刻表、JR線との接続を重視する。</li> </ul>
特長	<ul style="list-style-type: none"> <li>●現行のルートカバーすることにより、これまでの利用者の利便を確保する。</li> <li>●乗降の多い市街化区域について、効率的な運行を行い、かつ、運行時間帯の拡大により利用者の利便性向上を図る。</li> <li>●可能な範囲でルート延長等を行うことにより、これまでバス停が近くになかった交通空白地域の日常生活の足を確保する。</li> </ul>
運行経費 運賃収入	<ul style="list-style-type: none"> <li>●平日・土休日で運行時間帯のメリハリをつけることにより、運行経費については、縮減もしくは現行と変わらないようにする。</li> <li>●運賃収入については、民間路線バスの初乗り運賃以上とすること、平日の運行時間を拡大することなどにより、運行経費に対して50%以上の収入を見込む。</li> </ul>

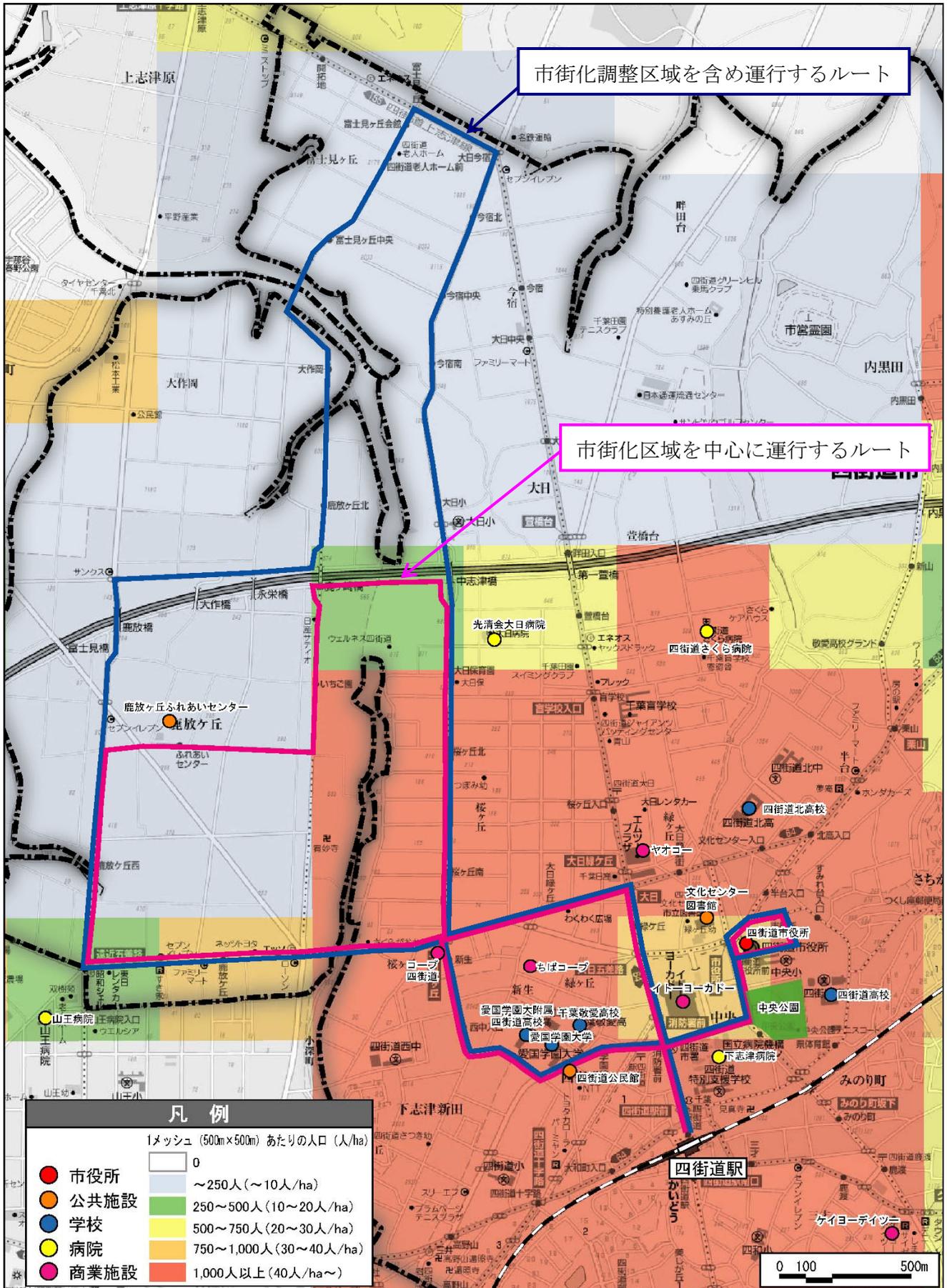
### 【 休 日 】

運行ルート	平日と同様
ねらい	<p>土休日は、平日と比較して利用者数が少なく、乗降調査に係る利用実態から勘案して、運行時間の短縮等を行う。このことにより、土休日においては運行経費の縮減が図れることから、全体経費の縮減もしくは全体経費を現行と可能な限り変わらないようにして、平日の運行時間帯を拡大し、利用者の利便性向上を図る。</p>

# 10-5.ヨッピーの見直し運行ルート図

ヨッピーの見直し運行ルートは、下図に示す2系統をベースとする。

【市街化区域を中心に運行するルート、市街化調整区域を含め運行するルート】



## 10-6.ヨッピー改善案にかかる利用者数と収支試算

ここでは、前頁のヨッピー見直し案の概算利用者数および収支試算を行うこととする。

(平日)

運行経費	約1,456万円 (2,000万円×245日/365日×13/12時間)
利用者数(見込み) <sup>※1,2</sup>	212人/日
運賃収入(見込み) <sup>※3</sup>	約831万円/年 (160円×212人/日×245日)

(休日)

運行経費	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 1台を7-19時運行 約330万円(1,000万円×120日/365日)</li> <li>● 1台を9-17時運行 約220万円(1,000万円×120日/365日×8/12時間)</li> </ul> <p style="text-align: right;">計約550万円</p>
利用者数(見込み) <sup>※1,2</sup>	147人/日
運賃収入(見込み) <sup>※3</sup>	約282万円/年 (160円×147人/日×120日)

※1：利用者数は、平成22年度の有料利用者数の想定人数68,150人(運賃収入6815千円÷100円により算出)を、平成23年度6月に実施した乗降調査結果の平日277人と休日197人の割合である58:42により、平日206人/日、休日147人/日を現状の利用者数とした。

※2：利用者は、運行時間の拡大による増加と運賃の値上げによる減少分が相殺するものと想定し、現状と変わらないものとして、算出している。第1案～第3案の大作岡地域の公共交通空白地域解消による新規利用者数は、平日平均乗車数3人相当が往復で増えるものと想定した。

※3：運賃を160円均一とした場合を想定。

### 【収支試算結果】

日利用者数(人/日)	平日	212
	休日	147
年間収入(運賃160円を想定) (万円/年)	平日	831
	休日	282
	合計	<b>1,113</b>
年間運行経費(万円/年)	平日	1,456
	休日	550
	合計	<b>2,006</b>
収支(万円)		<b>▲893</b>